

日本NIE学会会報

第40号

〔発行所〕日本NIE学会事務局

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1 横浜国立大学教育学部 重松克也研究室内

TEL/FAX 045-339-3433 E-mail jssnie2005@gmail.com

日本NIE学会第15回鹿児島大会のご案内（二次案内） 大会テーマ：資質・能力の育成とNIE

日本NIE学会会長 阪根 健二

第15回鹿児島大会実行委員長 上谷 順三郎

初秋の候、会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと推察申し上げます。

このたび、日本NIE学会第15回全国研究大会を、鹿児島県鹿児島市の国立大学法人鹿児島大学郡元キャンパスにて開催することとなりました。

周知のように、小学校から高等学校までの次期学習指導要領が告示され、小学校・中学校については『学習指導要領解説』も出されたことで、学校現場では改訂の主旨を踏まえた新しい教育課程や授業の在り方について検討が進められています。

新学習指導要領においては育成を目指す資質・能力として「各教科等において育む資質・能力」「全ての学習の基盤として生まれ活用される資質・能力」「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」を挙げるとともに、それらの育成に関して「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を柱とする資質・能力の視点から整理し、教育課程全体においてそれらの育成を図ることが謳われています。またこうした資質・能力の育成を図るうえで、学校は教育活動の目標を地域や社会と共有し、「社会に開かれた教育課程」を編成するとともに、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善も求められています。

一方で、NIE実践の開発や研究は、学会設立から15年を経過する中で、多くの学会員、さらには各地のNIEに係わる推進協議会や研究会を中心に進められ、着実に成果を生み出すとともに、全国的にもNIEの認知度を高めることに貢献してきました。しかしながら、従来の実践研究の多くは、単元や授業を開発し実践するまでの過程が中心となっており、それらの実践を通じてどんな資質・能力を育成しようとしたのか、しているのか、育成できたのかについては十分に論じられていないことも多いのではないのでしょうか。

こうした学習指導要領改訂の主旨やNIE実践研究の動向を踏まえ、本研究大会のシンポジウムは「NIEによる資質・能力育成の可能性を問う」というテーマを設定しました。NIEも意図的な教育活動として組織する限り、内容や方法面での活動の在り方だけでなく、目標に対する効果の検証が求められるし、またどのような方法で検証を行うのが検討される必要があるのではないのでしょうか。

NIEの将来像を描く上でも、会員の皆様とともに研究大会を通じて、議論を交わすことができれば幸いです。

皆様の本大会へのご参加を、心よりお待ちしております。

I 大会要項

主催 日本 NIE 学会

後援 鹿児島県教育委員会 鹿児島市教育委員会 薩摩川内市教育委員会 南日本新聞社
鹿児島県 NIE 推進協議会 (申請予定)

1 期 日 平成 30 (2018) 年 11 月 24 日 (土) ~ 25 日 (日)

2 会 場 鹿児島大学共通教育棟 1 号館
(〒 890-0065 鹿児島市郡元 1 丁目)

3 参加費

大会参加費：事前申込は 2,500 円 当日申込は 3,000 円

学生・院生は 1,000 円

情報交換会 (懇親会) 参加費：事前申込は 4,500 円 当日申込は 5,000 円 (会場の設営上, 事前申込をお願いいたします。人数に余裕がある場合に限り, 当日受付を申し受けます。)

4 テーマ 「資質・能力の育成と NIE」

5 日 程

第 1 日目 11 月 24 日 (土)

10:30	11:00	12:00	13:00	16:00	16:15	17:45	18:00	20:00
理事会 受付	理事会 一般受付	総会	シンポジウム 共通教育棟 1 号館	移 動	研究分科会 分科会 1 ~ 4 共通教育棟 1 号館	移 動	情報交換会 (懇親会) 学習交流プラザ 1 階	

第 2 日目 11 月 25 日 (日)

8:30	9:00	12:00
受付	自由研究発表 第 1 ~ 3 分科会 共通教育棟 1 号館	

Ⅱ 大会概要

11月24日(土)

理事会 11:00～12:00 (共通教育棟1号館3階 132号教室)

総会 12:00～13:00 (共通教育棟1号館1階 111号教室)

シンポジウム 13:00～16:00 (共通教育棟1号館1階 111号教室)

テーマ「NIEによる資質・能力育成の可能性を問う」

シンポジスト：田口 紘子 (鹿児島大学)

溝口 和宏 (鹿児島大学)

原田 義則 (鹿児島大学)

指定討論者：金城 太一 (文部科学省外国語教育推進室長)

小原 友行 (福山大学)

コーディネーター：上谷 順三郎 (鹿児島大学)

シンポジウムでは大会テーマを受けて、「NIEによる資質・能力育成の可能性を問う」とし、とりわけ読解力と表現力の育成とその検証に焦点を当てます。小学校における読解力育成、中学校における教科での読解力育成と教科横断的な取組みによる表現力育成などを研究テーマに据え、学校段階の違いや教科の特性を踏まえると、どのような育成の方法がありえるのか、多様な育成方法の在り方について検討します。またNIE実践の効果を検証するにあたって、どのような検証方法を採用することができるのかについても併せて議論を深めたいと考えます。

研究分科会 16:15～17:45 (共通教育棟1号館)

分科会1：NIEによる読解力の育成と効果の検証 (共通教育棟1号館2階 121号教室)

コーディネーター：田口 紘子 (鹿児島大学)

発表者：

立和田 大樹・朴木 裕子 (鹿児島市立谷山小学校)

「NIE実践校1年目の試み」

白井 淑子 (横須賀市立武山小学校)

「小学校国語科における読解力の育成」

分科会1は「NIEによる読解力の育成と効果の検証」をテーマとします。PISAの学力調査や全国学力テストの問題等で繰り返し問われている読解力ですが、NIEによる読解力の育成方法についても、特定の教科や領域における単元や授業の開発を通じた提案がなされてきています。一方で、近年においては、学校や行政による組織的な取組みを通じたNIEの試みも増えており、そうした活動においても読解力の育成が目標に掲げられています。しかしながら、中・長期的な視点に立って、その育成効

果を検証した研究は少なく、十分な検証が試みられていないのが現状です。本分科会では、読解力の育成についてその育成方法と検証の在り方について、事例報告をもとに議論したいと考えます。

分科会2：NIEによる社会参画力の育成と効果の検証 (共通教育棟1号館2階 122号教室)

コーディネーター：溝口 和宏 (鹿児島大学)

発表者：

池ノ上 博秋 (鹿児島県立大島高等学校)

「調査報道「本校は巨大軍需工場跡」～新聞部の活動を通じた社会参画力の育み～」

藤本 将人 (宮崎大学)

「社会参画力の育成と効果の検証—北海道新聞 NIE 推進センターと北海道教育大学釧路との共同研究を事例に—」

分科会2は「NIEによる社会参画力の育成と効果の検証」をテーマとします。新学習指導要領においては、学校教育目標を学校だけでなく地域や社会と共有し、社会との連携を深める中で教育活動を展開する「社会に開かれた教育課程」の実現が求められています。社会参画力の育成には、当然ながら地域を中心とする社会との連携が不可欠であり、長期にわたる継続的な実践を伴うこととなります。また、社会参画の意欲や行動面での意志の変化などについての検証も不可欠です。本分科会では社会参画を視野に入れ展開されたNIE活動の事例報告を通して、実践と検証の在り方を議論したいと考えます。

分科会3：NIEによる表現力の育成と効果の検証 (共通教育棟1号館2階 124号教室)

コーディネーター：原田 義則 (鹿児島大学)

発表者：

姥 英一郎・工藤 憲孝 (薩摩川内市立川内中央中学校)

「NIEによる表現力の育成～小中一貫教育の取組(ふるさとコミュニケーション科における新聞活用)～」

二田 貴広 (奈良女子大学附属中等教育学校)

「新指導要領での表現力を育成するNIE単元～生徒たちの思考・判断・表現のサイクルを回す～」

分科会3は「NIEによる表現力の育成と効果の検証」をテーマとします。読解力と同様、NIEによる表現力の育成については様々な研究がなされてきましたが、それらの多くは特定の教科や領域における単元や授業の開発を通しての育成を試みるものが中心でした。しかしながら、「表現力の育成」は児童・生徒の実態を踏まえながら中・長期的な視点に立って、各教科・領域で、あるいは教科横断的な視点で育成を図ることが重要であり、NIEを教育課程上にどのように位置付けることで、そのより良い育成が可能となるのかについての検討も求められます。本分科会では、表現力の育成を図るNIE活動の事例報告を通して、実践と検証の在り方について議論したいと考えます。

分科会4：新聞社による NIE の実際と検証 (共通教育棟1号館2階 125号教室)

コーディネーター：上谷 順三郎 (鹿児島大学)

発表者：

谷上 英文 (南日本新聞社)

「学校 VS 新聞社 教育効果の高い新聞講座 (よむのび教室) の考察」

城島 徹 (毎日新聞社)

「新たな学力観に合致する NIE - 今こそ新聞の出番です -」

分科会4は、「新聞社による NIE の実際と検証」をテーマにします。近年、新聞社による多様な NIE の取り組みが、全国の学校で行われています。学校における新聞社の NIE の試みは、教師が教科等において行うものとは異なり、記者やカメラマンとしての専門性に裏付けられた活動が展開され、高い評価を受けています。しかしながら、こうした活動の検証や改善の取り組みはどのように行われているのか、単元やカリキュラム、子供の実態をふまえた整合性のあるものとなっているか、また活動後の教師による NIE との接続性等も検討が必要です。本分科会では、新聞社による NIE に関してどのような検証や改善の方法があるのか、事例報告を通して、語り合いたいと考えています。

情報交換会 18:00～20:00 (学習交流プラザ1階)**11月25日(日)****自由研究発表** 9:00～12:00 (共通教育棟1号館)

例年通りの口頭発表スタイルでの自由研究発表です。発表者は分科会ごとに、発表20分・質疑応答10分の枠内でスライドやレジュメを用いて研究発表を行います。発表要旨原稿を事前に提出してください。会場には、スクリーン、液晶プロジェクタが備えつけられています。HDMI・VGA 対応可。

第1分科会 (共通教育棟1号館1階 111号教室)

司 会 角田 将士 (立命館大学)

野津 孝明 (国立三瓶青少年交流の家)

① 9:00～

NIEを通して育む国語科「読むこと」の資質・能力 一文学的文章教材の授業実践 (小学校中学年) を例に一

田野辺 浩一 (鹿児島県鹿屋市立西原台小学校)

② 9:30～

小中一貫校における新聞投稿を中心としたNIEの実践

前野 勝彦 (高松市立高松第一中学校)

③ 10:00～

新聞記事データベースにおける情報活用能力の育成

伊吹 侑希子 (京都学園中学高等学校)

④ 10:30 ～

新聞を使った初年次教育－ハッピースクラップ帳を活用して

國弘 保明・根来 麻子（川崎医療福祉大学）

⑤ 11:00 ～

保育学科学生の新聞力及び文章力の一考察 -NIE 社会福祉記事ワークブックを中心に -

松井 圭三（中国短期大学）

第2分科会（共通教育棟1号館2階 121号教室）

司 会 臼井 淑子（横須賀市立武山小学校）

中 善則（花園大学）

① 9:00 ～

英文とコラムをリンクさせた授業の一考察～一回の授業で感動とモチベーションを高める授業を目指して～

久光 原（北海道恵庭南高等学校）

② 9:30 ～

「西日本**新聞**・大阪北部地震」を始めとする新聞記事を用いた、英語による自己表現
豪雨

山西 敏博（大阪大学大学院 博士後期課程）

③ 10:00 ～

NIE の限界と可能性を探る～直接体験困難な場合の資料としての活用～

笹原 信二（熊本市立龍田小学校）

④ 10:30 ～

地域の魅力を発見・発信する子ども記者クラブ

橋本 祥夫（京都文教大学）

⑤ 11:00 ～

大学生による地域活性化新聞の作成を通じた社会参画と市民性の涵養

山田 明（九州共立大学）

⑥ 11:30 ～

瀬戸内の里山・里海創生をテーマとした大学における NIE 授業の開発－「新聞記者になる」の実践化－
小原 友行（福山大学）

第3分科会（共通教育棟1号館3階 131号教室）

司 会 朝倉 淳（広島大学）

小田 泰司（福岡教育大学）

① 9:00 ～

原発ディベート意識調査報告～震災6年後の原発ディベート実践を通して～

福丸 恭伸（鹿児島市立松元中学校）

② 9:30 ～

生涯教育としての NIE – 高齢者を中心とした市民講座の実践を通して –

松井 克行 (西九州大学)

③ 10:00 ～

東京未来大学の授業における NIE の実践—多文化体験の試み—

佐藤 久恵・所澤 潤・神部 秀一 (東京未来大学)

④ 10:30 ～

NIE を通じて育みたい力の検証 – 日本 NIE 学会会員への質問紙調査より –

加藤 隆芳 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)

⑤ 11:00 ～

新聞閲覧行動が成績に及ぼす影響：大学生の情報収集に関する調査結果

中野 美香 (福岡工業大学)・下園 大貴 (福岡工業大学学生)

Ⅲ 研究発表問い合わせ先・発表要旨原稿送付先

〒 890-0082 鹿児島県鹿児島市郡元 1 丁目 20-6

鹿児島大学教育学部

日本 NIE 学会第 15 回鹿児島大会実行委員会 溝口和宏 宛て

TEL / FAX : 099-285-7854 (溝口和宏) E-mail: nie15kagoshima@gmail.com

Ⅳ 大会参加申込と参加費の支払いについて

大会参加申込と参加費の事前支払いにつきまして、今回は Web にて受付け致します。

日本 NIE 学会ホームページ (<https://www.jssnie.jp>) のトップ画面にある「第 15 回鹿児島大会事前参加申込・発表申込はこちら」ボタンより移動頂き、「第 15 回鹿児島大会参加申込・発表申込」の画面にて、参加申込と参加費（情報交換会にご出席の場合は、情報交換会参加費も含め）の事前支払い（電子決済）をお願い致します。

大会参加申込及び参加費の事前支払いの期限は 10 月 31 日（水）です。自由研究発表をされる方も、必ず参加申込をお願いします。大会参加費（及び情報交換会参加費）については、参加申込後、10 月 31 日（水）までに申込サイトにて電子決済を終了下さい。（銀行振込をご希望の方は参加申込サイト内の情報をご確認下さい。）

- ・ 大会参加の申込み、及び大会参加費（及び情報交換会参加費）の電子決済の両方が完了した時点で事前申込完了となります。
- ・ 期限内に参加費の電子決済をされなかった方については、当日申込の参加費とさせていただきます。
- ・ 電子決済終了後に参加をキャンセルされた場合、入金いただいた費用は返金いたしかねますので何卒ご了承ください。

・大会参加費、情報交換会参加費の領収書は、大会当日、受付にてお渡しします。

なお、大会参加事前申込及び参加費（及び情報交換会参加費）の決済業務については、株式会社日本旅行九州法人支店へ委託しております。

問い合わせ先

※ 大会参加申込み及び大会参加費、情報交換会参加費の支払い決済につきましては、株式会社日本旅行九州法人支店へ委託しております。

株式会社日本旅行九州法人支店 担当：増田、船越、坂東

〒 812-0011 福岡市博多区博多駅前 3-2-1-5F

E-mail : fukuoka_ec@nta.co.jp

TEL : 092-451-0606 FAX : 092-451-0550

V 交通案内・宿泊・受付・その他

- ◎ 交通案内については、本学ホームページの交通アクセス (<http://www.kagoshima-u.ac.jp/access/>) をご参照ください。自家用車の入構はできません。公共交通機関をご利用ください。
- ◎ 宿泊は、各自で手配頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。大会参加申込サイトからも、宿泊を予約頂けますので、ご利用ください。この時期は秋の観光シーズンで、鹿児島市内は混雑が予想されます。早めにご予約されますことをお勧めいたします。
- ◎ 大会終了後の巡検等は準備しておりません。各自県内各地の観光をお楽しみください。
- ◎ 受付
 - (1) 一日目と二日目ともに受付場所は同じです。
 - (2) 受付は「事前受付」「当日参加受付」の2つに分かれています。10月31日までに大会参加申込み・電子決済をされた方は、「事前受付」にお越しくください。事前申込みをされていない方は、「当日参加受付」にて受付をお願いします。なお、事前受付をされた方の要旨集録集は確保しますが、当日受付の場合、要旨集録集が足りなくなり、お渡しができなくなる場合があります。参加ご希望の方は、できるだけ事前申込みをお願いいたします。

VI 会場アクセス

■鹿児島市へのアクセス  鹿児島空港から  鹿児島空港リムジンバスで鹿児島中央駅まで約40分



Ⅶ 会場案内図

